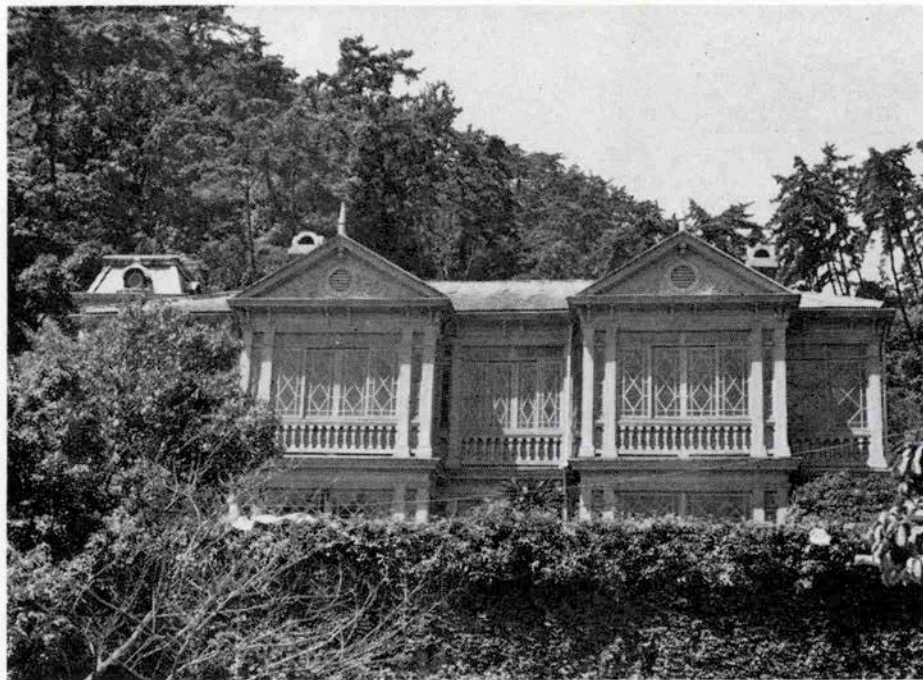


北野町・30年前

文・写真

林田重五郎

〔元・新聞記者〕



北野町にあったころのハンター氏邸。背山の緑のなかにドッシリと見事。(昭和36年晩夏撮影)

近年、神戸で一番わたしを驚かせた町、それは北野町である。30年前には異人館が古くなり、次から次へと姿を消して、夕日の町の思いをさせられたのが、この数年間のにぎわいはどうだ。

ブティックなどが何十軒と生まれ、有名な和洋料理店がズラリと並ぶ。有名異人館は美しく手入れされてよみがえり、町中は訪れる人々の熱気でいっぱい、神戸だけではなく全日本的な町になっている。わたしの関東に住む孫娘たちも、こちらへ来るとまっさきに北野町へ。

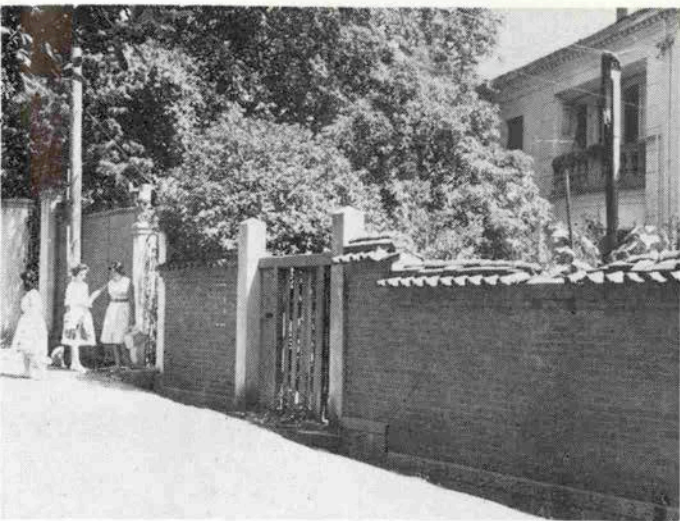
全くすごい。この間もある放送で、あるタレントが北野「マチ」といった。この有名な「チヨウ」を誤まるとは、と吹き出したが、マチがおかしく耳なれぬほど「チヨウ」が全国的になじまれて来ているのであろう。

約30年前の昭和36年、月に一回

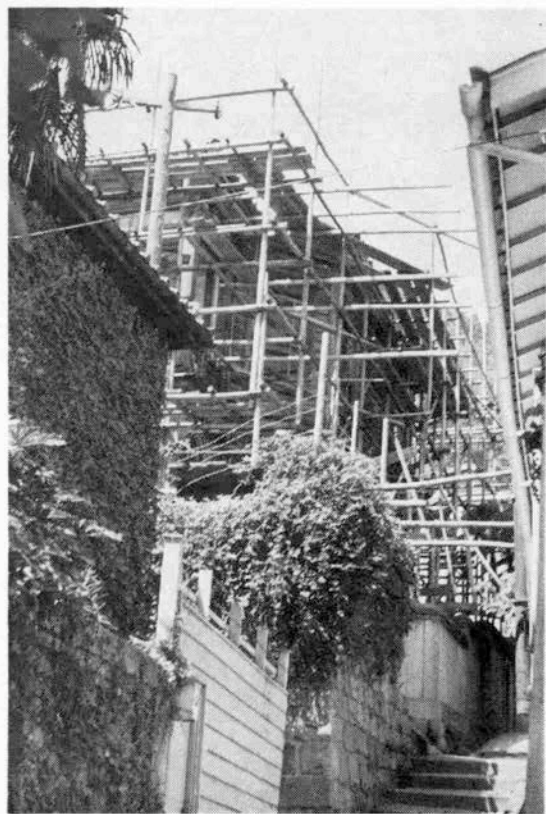
新聞に書いていた「京阪神だより」という傾向ものの一編に「異人館の秋」を取材、北野町を回った。当時神戸市建築局におられた異人館の権威坂本勝比古さんにいろいろ教えてもらう。

神戸で全盛期には数百むねにのびた木造洋館が戦災や建て直して消え、このとき残っているのは北野町・山本通を中心に約五十むね。

それも日々鉄筋にかわつ



北野町のあたり。まだ、いつも静かなたたずまいだった。(昭和36年撮影)



これはたしか、相楽園に再建保存されているハッサム邸の解体修繕工事の風景と思われる。(昭和36年晩夏撮影)

てゆくのである。洋館が消えゆく斜陽の姿だった。

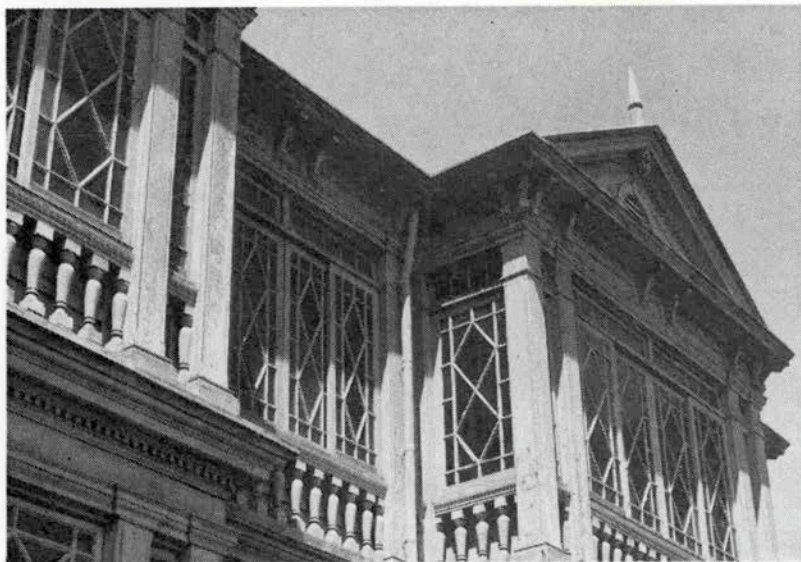
なくなるのは全く惜しい——そんな声があんだん強くなって、まず女子短大北野寮、旧ハッサム邸が重要文化財に指定されたのが、この36年の3月だった。明治35年に有名なハンセル氏が設計したもの。神戸市では一千万円の費用で2カ年がかりで移築を計画、解体工事だった。相楽園で保存されているのはこのおかげである。

このころ北野町の山の近くにある規模最大のハッサム邸も建て替える話が出た。わたしは昭和23年ごろ邸内を見せてもらったことがあるが、洋館建築の一つの頂点といわれるだけに外観はもち

ろん内部も目を見張る美しさであった。36年にど
うなるのか心配しながら外からとった写真を何枚
か、かかげる。
幸い兵庫県が相当な金を出し、いまは王子公園
に移築保全されている。

欲をいえば建っていたところでそのまま保存さ

れるのが有難いが、まわりの景色は変わるもの
の、ずっと見られるのは幸いである。そして30年
前のこの夕日の姿が一変する日が来ようとは―。
北野町のすばらしさを思う…。



北野町にあったころのハンター氏邸。昭和36年撮影。(上下とも)



■ エッセイ ■

ガラス浪漫

青木はるみ 〈詩人〉

カット・杉浦祐二

神戸でのお買物は布地と決めていた頃がある。

若くてデザイナーを志望していたから、布地は夢そのものだった。ところが今にして思えば、あれは単に素材としての布地そのものが好きということでしかなかったのだ。

神戸でのお買物ナンバー2は靴だけれど、なぜ足に履くだけのあんなものが、あれほどまで美し

いのだろうと嘆きながら買ってしまうので、そのままの死蔵が多い。

しかし、やっぱり死蔵って言葉はこわい。もし私が今ぼっくり死んで、誰かが私の持ち物を整理するときに、あきれ顔を想像するのが嫌なのである。衣装箱から衣装が出てきても何のふしぎもないが、どの衣装箱を開けてもどきどきと布地が

出てきたらどうだろう。極端に言えば、百さいまでミシンを踏みつづけて、毎日毎夜ドレスを着替えるつもりという覚悟だったのかな、なんて思われてしまいうちがいないのだ。ついでに靴のほうは「なあに？これ。ムカデじゃあるまいし」と笑われるのは必定。

こんなことを書く私はいかにも物欲のかたまりに見えるかもしれないので、大いそぎで弁解しておく、私は大きな家とか新車とか宝石とか家具とかいった類への執着はまるでないのである。テニスもゴルフもスキーも何もしないで暮らしているのだから、役にも立たない死蔵かもしれないけれども大目に見てよ、などと思っている。それに布地も靴も、きれいなと見惚れて買って帰るときが最高にうれしいので、量的に増えていく結果はむしろ私自身にも迷惑なことなのである。

それで最近はずがに虚しくなってきた。よく考えてみると布地や靴は妙に実用的だからこそ、数の増える滑稽さがつきまとうのではないかと。そんなに使いきれぬもんじゃありません。その非難は少しもロマンティックじゃない。よし、それならばジョッキジョッキと布を切りテーブルセンターにして、靴を花瓶のように飾るってのはどうだろう。もちろん工夫すれば靴に花くらい活けられるわけである。それでも、こういう執着がやっぱり虚しくなってきた。

大学教授だった父は、書斎の床が抜けるほどの書籍を持っていたけれど、晩年はワイングラスのコレクションに夢中であつた。私はそれらを洗ったり磨いたりさせられたので、徐じよにその美しさにとり憑かれそうで怖かつたものだ。私はしっ

かりと心に錠をかけるように父のコレクションを眺めていたのだ。

ところが人並に私もイタリア旅行をする機会があり、とうとうベネチアングラスを買ってしまったのである。他には何ひとつおみやげらしき物を買わなかったのに。それは典型的なベネチアンレッドで、血の赤、としか表現のしようがなかった。思わず手に力を入れて壊してしまいたくなる妖しさがあり、つい欲しくなったのである。お店の人は、いかに嚴重に細心にグラスを梱包するかを説明し、まるでミイラのような包みを、ぼーんと空中に放りあげてみせたのであつた。

それが五年前。私はまだその包みを開けていない。少しずつ記憶がうすれて、もう、どんな装飾が施してあつたかとはつきりしない。ただ、グラスをきりきりと巻きあげている虹色のキャンディのような包み紙が、糸くずのように裁断されていて、それを更に白紙で巻きあげた顛末だけが鮮やかに目に残っている。

先だつて或る展覧会で、アンティークのガラス細工を見た。ガラスの鳥カゴにも驚いたが、ガラスの碩と、すぐそばに對になってガラスの小さな小さな衝立が立ててあるのを見て、ため息が出た。墨をするときの佳い匂いを逃がさないための衝立なのであろう。けれどガラスなんだから、すべては透けていて、まさに「ガラス浪漫」という思いが心に満ちてきた。危い状態である。このままイタリアで買ってきたあの包みを開けてしまふと、遂に病みつきになり、神戸でのお買物はガラス器よ、ってことになってしまひそうぞい。

美

術夜話〈8〉

奥村隼人

遺作展が終つて

榎井 俊作〈奥村隼人遺作展 実行会〉

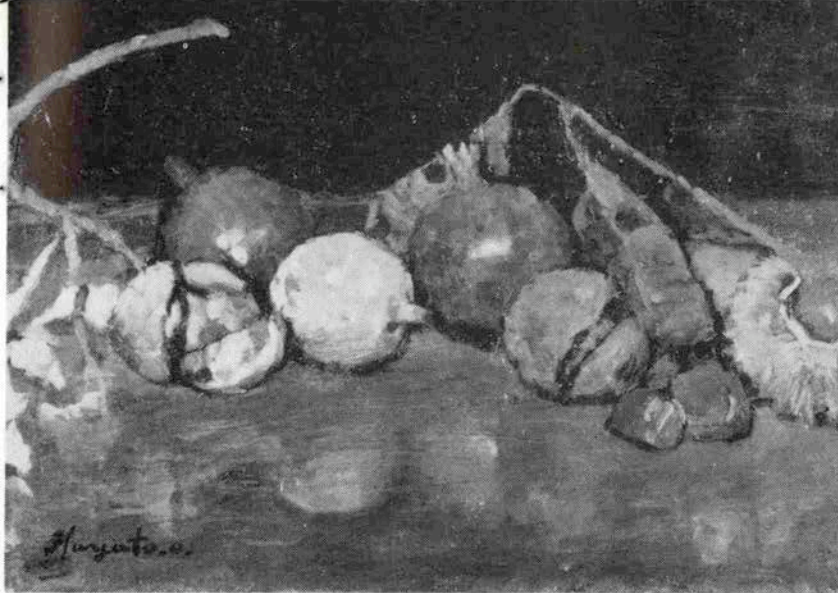


お通夜に集まった晩に、遺作展を開こうと誓い合いました。ご遺族のためではなく、遺作展実行会メンバー一人一人のために、奥村隼人のやって来た事を確かめるために……。私達は二十年程前に、神戸市民美術教室で先生に教えて頂きました。何年かして美術教室が無くなってからも、裁判所前の弁護士会館の四階、諏訪山小学校、中央区役所横の神戸市勤労会館と、教室を転々としながらもご一緒に絵を描き、教えて頂き、語り、酒を酌み交せて頂いた事が思い出されます。

遺作展の開催時期について話し合いました。「開くだけなら今、手元にある絵を飾るだけで直ぐにでも壁面を埋める事は出来る。」しかしそれでは意味が無い。「五年は掛るんちゃうか。」それでは奥村隼人を皆が忘れ去って……。結論に達しました。「三回忌にやろう、二年後の秋に。」

昨年二月いよいよ動き出しました。会場・後援のあたりを付ける者、資金の捻出に頭を使う者、先生の覚え書きを元に人と会い交渉する者、全作品の整理作業に没頭する者、怒鳴られながらもその手助けをする者など、誰言うもなく役割が自然と決まっていきました。毎月一度、日曜日に集まって話し合いました。先ず資金作りを

「柘榴と栗」

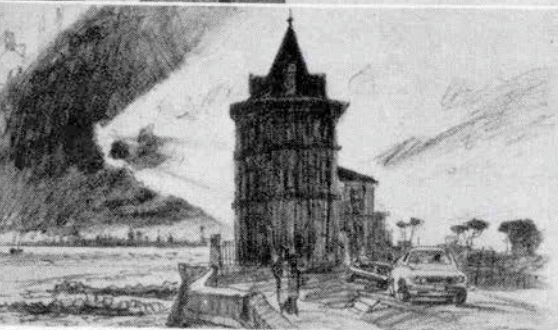
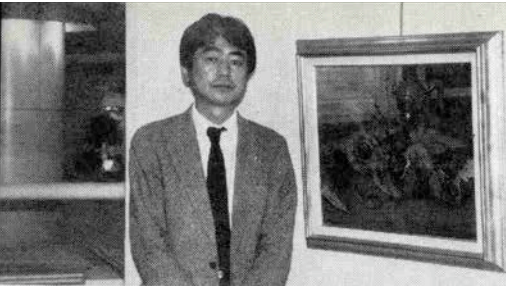


考えました。自分達の作品を売る事で金を作ろうとした。昨年の七月と今年の一月に、私達と、先生に直接関わりのない方々にも協力していただいて資金を作るための作品展を開きました。その時のお金と、先生が教えておられた他の教室の方々からのご寄付等を活動資金としました。

準備も徐々に進んで行く内に、戦前・戦後、特に三十才頃の絵が見当りませんでした。ある時、某神社に戦時中、先生が、若い頃の作品か思い出の品を行李に入れて



奥村氏の作品（上・左下）
奥村隼人遺作展にて（ギャラリーさんちか）



預かってもらっているという事が判りました。その神社に何度も訪ねて掛け合いましたが、結局応じて下さいませんでした。何か面白い物が出て来るのではないかと期待していましたが、誠に残念です。絵を探しているのなら広告を出したらどうですかと言われる方がありました。その方のご尽力で神戸新聞に十四〜五回「奥村隼人の絵を探しています」という広告が掲載されました。四〜五回掲載される内に、絵の所蔵者や古くからのご友人から連絡が入る様になりました。絵を持っている事で、義務を感じて電話して下さる方もいらっしゃいました。色々と絵の事の他にも先生の酒の上での武勇伝など、興味深いお話も伺いました。そして私達が探し求めている絵の所在も何点か判りました。大きな収穫です。

整理作業をやっている者は、毎週月曜日に渦ヶ森のお宅に伺って、遺されていた油絵・素描等、の作品の一枚一枚を写真に撮り、年代・サイズ・タイトル・所蔵者等の整理をしました。それらの情報をいつでも取り出せる様にコンピューターにも入れました。これらを根気よくやった事に頭が下がります。素描を保護するために一枚一枚台紙を作ってカバーを掛け、それらを入れる箱も全て手作りです。その徹底した技術には全員ビックリしました。

陳列作品を選んでいく内に、師の絵の素直さ、暖かさ、てらい無く情愛を持って描いて来た事、絵を描く動機といった事などが感じ取れました。油彩以上に素描の方が、師の日常の生活や考えていた事が深く生に私達に伝わって来ました。これは放つては置けないという事になり、ご自宅に遺されていた素描一五〇〇点の中から選り素描集として、小冊子を作りました。

そんな、こんなで漸く遺作展の開催に漕ぎ着けました。（11月9日〜14日、さんちかギャラリー）でおかげ様で多くの方々にご高覧いただき、奥村隼人の仕事を再確認していただきました。この二年間数多くの方々にお世話になりました。ありがとうございました。

□エッセイ

作家・島尾敏雄と 神戸

岡見 裕輔 〈詩人〉



昭和54年10月
神戸外大市民講座のあと
田島学長・金田元学長らとともに

作家島尾敏雄さんが鹿児島島の自宅の書庫で脳梗塞のため倒れ、急逝されてから三年の歳月が過ぎた。神戸は島尾さんにとって、ゆかりの深い街である。西灘第二小学校、神戸小学校、県立第一神戸商業学校と少年期の全てを神戸で過ごし、旧制長崎高商、九州帝国大学で学び、昭和十八年十月に海軍兵科予備学生として出陣、敗戦で復員するまでの間も実家は六甲山の麓にあった。

戦後、彼は旧制山手女子専門学校の講師、神戸市外国語大学の助教授として教壇に立った。震洋特攻艇隊の指揮官として赴任した。奄美群島加記呂麻島で運命的な出会いをしたミホさんと戦後結婚し、伸三君、マヤさんの二子をもうけたのも六甲の家である。

昭和二十七年三月、作家としての仕事に専念するため、家族と共に上京、島尾さん満三五歳になった年である。したがって彼の六九歳の生涯のなかで最も長い期間にわたって過ごしたのが神戸である。純文学の極北に位置すると評価される島尾文学の、最も根深い部分がひそかに生成され、はぐくまれていった場所が神戸だと言っても差支えないと思う。

「島尾さんを偲ぶ会」を神戸で開きたいという思いは、

私や仲間たちの胸のうちに年々つのつていった。今年（89年）三月に、神戸外大で島尾さんに教わった私たち仲間五人は鹿児島を訪れた。ミホ夫人、マヤさんと出会い、島尾宅では書斎や書庫を見せていただき、ミホ夫人らしい出話を繰り返すうちに、どうしても「島尾敏雄と神戸」をもっと深く確かめてみようと呼びたいようになった。

「島尾敏雄氏を偲ぶ神戸の集い」はこうして十一月五日に、ミホ夫人と伸三氏マヤさんをお招きして、中央区北野町の六甲荘で開かれた。七十一名という予想をはるかに超えた人々が参加して下さったが、この集いと呼びかけていた間に、不思議な偶然としか言いようのない出来事がいくつか起こり参加者の輪が広がっていった。たとえば、発起人の一人である丁君がたまたま神戸に立寄った際に、昔からの古いつき合いのある酒場へ顔を出して、マヤさんに島尾さんの会の計画を喋ったことがあった。その場に居合せたある娘さんが、その話を耳にして自分のオジさんが島尾敏雄という作家と小学校で同級だったと語っていたことを思い出し、後日この会のことをオジさんに伝えてくれたのだった。小学校とは神戸小学校のことで、昭和五年に卒業した島尾さんの同級生たち

は、昭五会という会を毎年開き、島尾さんも度々鹿児島からやって来て昭五会に出席していたということだった。そういう訳で昭五会の幹事の方からその酒場へ電話があり、会の計画を喋ったT君の所在が確かめられ連絡がついた。昭五会のメンバーには島尾さんと共に県立商業へ進学した人もいた。こうして小学校、県商といっ気



ミホさんを囲んで 遺影とともに

につながっていった。その他にも、ほとんど口コミでこの集いの計画が伝わっていき、当初の予想の倍近い人々が参集することになった。

「島尾敏雄と神戸」はやはり深いきずなで結ばれていた。それも、島尾さんの豊かで奥行きのある深い人柄によるものだと改めて感動を覚えるのだった。

「神戸の集い」では、神戸小学校、県商のクラスメイ、神戸外大で同僚だった長田夏樹教授、それに海軍時代の同期生、教官といった方々が、また文学関係では、作家の陳舜臣さん、馬部貴司男さんが、それぞれエピソードをまじえ思い出を語った。会場正面には島尾さんの写真が飾られ、その両脇には小学校時代の文集や写真、初版本、古い同人誌と生原稿など貴重な資料が並べられていた。色紙の絵と短文を屏風にしつらえた珍らしいものも展示され、参加者の目をひいていた。

本誌「神戸っ子」の39号（昭和39年6月）に「私の中の神戸」と題して、島尾さんがエッセイを書いている。「神戸は私の育ったところ。とにかく、大正の終りのころから昭和二十七年まで、私の家は神戸にあった。そのあともしばらくは父は神戸に住んでいた。だから神戸のことならなんでも知っているつもりでいた。町のことでなく裏山のどんな山も坂も谷も池も川も私にこの世の中を教えた材料でないものはない。」という書き出しである。この彼の気持ちは、神戸で生まれ育った私にはよく分かる。目を閉じると山のかたちや、ゆるやかな斜面を走る浅い川の流れなどが喉の裏に浮んでくる。「幼少の日を送った神戸を回想すると日々の緊張から心はときほぐされ、つい軽い言葉が（へたな神戸弁ではあるが）口について出てくるのを覚えないわけには行かぬ。」エッセイはこう結ばれている。ミホ夫人には今回の神戸訪問は三十数年ぶりのことであった。いち日、娘のマヤさんと共に懐しい六甲・摩耶の山辺を散策されたという。

「神戸は私の育ったところ。」島尾さんが神戸に帰って来た。私は今そう思っている。



特別インタビュー

市民の声に耳を傾けて より良い神戸を作りたい

笹山 幸俊 〈神戸市長〉

聞き手・小泉 康夫

〈本誌・編集長〉

市政百周年を迎えた神戸市に、笹山幸俊新市長が誕生した。5期20年の長きにわたって続いた宮崎辰雄前市長の後釜を受けて登板した笹山新市長に対する市民の期待は大きい。と同時に市政に対する厳しい声も、選挙の時

に数多く聞かれた。

新生神戸丸の舵取りは、一にも二にも新市長が握っている。今後の神戸が益々国際文化都市として発展を続けていくために、本誌では笹山市長の多方面からのビジョ

ンをお伺いした。

★ぬくもりのある街づくりを…。

——新市長の御就任おめでとうございます。月並みですが、まず新市長としての抱負をお聞かせ下さい。

笹山 いろいろな経過はありましたが、何とか一段落といたったところです。しかしこれから真のスタートだと思っています。

まずは一刻も早く、市政が停滞しないように、以前の平常な状態に戻さなければなりません。

それと共に宮崎前市長の遺された良い点、見習うべき点は継承していきますが、ただ模倣するのではなく、どんな市民の声も聞き、新しい意見も取り入れてアイデアを生かしていきたいですね。

——今も言われた市民の声がよく伝わっていないという批判については。

笹山 特に行政面で市民の声が届いていないのではないかとという意見を耳にしています。中でも事業がスムーズにいったいないという意見が多いようです。

私が言うのも変ですが、神戸市はいろいろな面において全国で一、二を争うほど進歩的な都市だと思います。しかしそれだけでは今の世の中通用しないんですね。現在は、細かく丁寧に市民の声を聞いていく時代に入っていますね。

——笹山新体制のカラーは。

笹山 基本的に市政は市民のためにあるものです。ところが現在では、多くの意見がその基本について寄せられている状態です。

まず一人一人の職員が、市政に参加しているという意識を持ってもらい、努力してほしいですね。

もちろん私自身が率先して区役所などを回って、一日区長を務め、直接市民の声を聞きたいと思っています。

また市政や市の施策に反対、不満の意見を持っている人や団体の声にも耳を傾けて、よく話し合いたいですね。

そこから又、何か新しいアイデアが浮かぶかもしれないですね。積極的にこの施策を進めて行くつもりです。

例えば「神戸市のこの料金は他都市に比べて割高だ」という批判があります。当然その額は、それぞれ根拠があって定められたものなのですが、現在においてどうか改めて見直す必要はあるでしょうね。

一方、市民に対して、どうしてこういう料金になっているのかを説明し、理解してもらわなければなりません。その際も、「やむなくこういう料金になった」というのではなく、もっと料金を引き下げるにはどうすれば可能かということを、市と市民がトコトン話し合うべきです。

いい機会ですので公共性と公平性の二点から見直しを図りたいですね。

ぬくもりのある街づくりを目指したいと思います。——福祉面で遅れていると言われますが。

笹山 他の都市と比べると、良い点も多くありますが、悪い点、遅れている点もまだあることも事実です。

福祉は、特に老人問題は高齢化の時代に入ってきたので重要なことだと考えています。

現在、3年計画を実施中で、具体的には市街地に特別養護老人ホーム、一区に一つの在宅福祉センター、ショートステイ施設、ケア付き住宅などを建設し、ホームヘルパーを増強してまいります。また、障害者援護施設の充実を図っていきます。

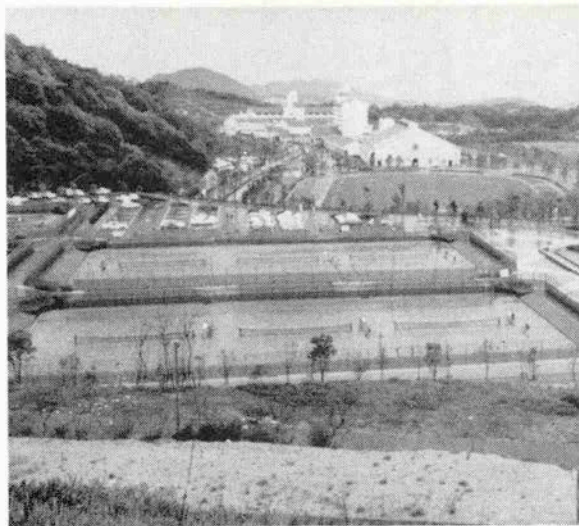
その他にも婦人交流施設や健康増進センターを建設してまいります。まだまだ施設の面で遅れてますので努力したいですね。

★市民の文化エネルギーを発表する場づくりも

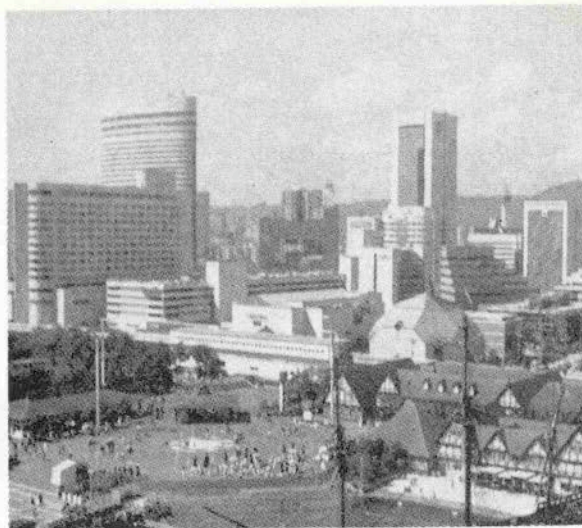
——文化、芸術の方面についての施策はいかがですか。

笹山 残念ながら、この方面も施設が少ないんですよ。私としても、本当に悔しいですが（笑）。

市民の発表の場や公共施設をもっと増やしたいです



森のせわな



ポートアイランド

ね。

市民の中でも、何か文化・芸術活動に10〜15年位、打ち込んできて、どこかでその作品、成果を発表したい人も多いと思うんです。

ですから、まず手始めとして区民ホール、神戸フアッションセンター、芸術文化センターなどを建設したいですね。

それと同時に、宿泊施設もつと必要ですね。

例えば海外や東京などから文化人や芸術家が来神しても、その講演会なり発表会が終了とすぐに帰ってしまうんです。

近年、神戸にも新神戸オリエンタルホテルやホテルオークラといった大きなホテルが建ち出してきましたが、もっと多くの人が泊まれるスペースが欲しいですね。

市立の美術館がないんですね、神戸には。

笹山 これもまた寂しいし、残念なことですね。

先日行われた「松方コレクション展」にしても、市立博物館で開催されましたからね。

市民が自由に観賞、発表できる市立美術館は本当に望まれますね。

笹山 本物志向もいいですが、ごく少人数に限られてしまうわけです。

ですから、貸しギャラリーも多いわけですね。

他の都市との横並びや、今までの慣習にただ従うというのではなく、新しい視点からいい方向に向けて、見直しをしていきたいと考えています。

——教育面については。

笹山 今後、学生数が減少していく時代に入るわけですが、教育問題、特に受験戦争、学校のランク付け等は一層拍車がかかると思います。

中でも塾の問題ですね。

学校が終ると生徒皆が塾へ通うという光景は、やはりまともな姿ではないですし、子供はもっとのびのびと育ってほしいですね。



「WFF89は本当にすばらしい企画でした」

そのためにも野外活動センターを整備して、大自然との触れ合いをしてほしいですね。

それとこれからの国際化の時代に対応できるように、全市立中学、高校へ外国人講師を配置したいと考えています。

生の英語を感じ取って、神戸を訪れる外国人観光客を堂々とガイドできるようになってもらいたいですね。

★住みやすい神戸の街づくりを目指して

——先日、神戸、大阪、京都で繰り広げられたWFF89は、大盛況のうちに終了しましたが。

笹山 本当にすばらしい企画だったと思います。

これからもずっと続けていってほしいですね。

街——（イコール）ファッションだと私は思っています洋服を作ってもそれを見せる場所が要るわけで、それが可能なのが神戸という街なんです。

神戸はまず立地条件がいいですから、情報発信基地としてさらに前進していきたいですね。

——今の質問に関連して、観光客も少なくはないと思うんですが、今一つ盛り上がりにも万全の受け入れ態制に欠けるのではないのでしょうか。

笹山 せっかく全世界、全国から多くの観光客が来られるのですから、もっと親切にしてもてなしたいですね。

観光客が安心して観光に回れるようにPRする必要はあると思いますね。

特に異人館周辺には、連日のように若い女性客が大勢来られています。館なり店なりに入りづらいのかウロウロしている人がよく見受けられます。

やはり、これなどはサービス不足でしょうね。

だから他から来る人たちには、よそよそしく映るのかもしれない。

——街に活力がないと。

笹山 もちろんです。いきいきとした活力を持つために理工系大学、産業振興センターの建設を予定していますし、民間の神戸レジャーワールド構想も進んでいるようですからこれも支援していきたいですね。

それと実現はまだ遠い先ですが、神戸空港の案もあがっています。

——開発と自然との調和の問題も重要ですね。

笹山 手前ミノになります。神戸ほど理想的で、時代の最先端をいっている街はないと思います。

これだけ自然に恵まれた山でも、海でもある都市は他にはありませんよ。

またそのレベルもかなり高いと思います。



11月20日 笹山新市長の初登庁

開発の問題も極端に言われるとつらいんですが。(笑)
まず山と川から押えていきたいですね。

——最後に、市民に対する要望がありましたら。

笹山 これは職員にも言いたいことですが、市民の方々も神戸の良さをどんどん誇りにしてほしいですね。

神戸は本当にいい所です。

インナーシティーの再生や大規模な中央公園の整備等も、調和とアメニティーということで進めていきます。

これからも、もっと住みやすい神戸の街づくりを目指して努力していきますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願いしたいと思います。

——本日はお忙しいところありがとうございました。

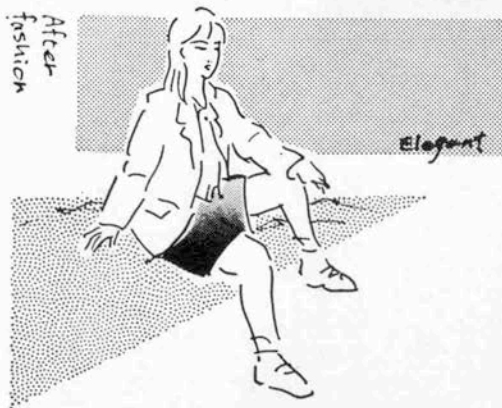
(神戸市海洋博物館にて集録)

文責・編集部

ブランドものの クリーニングは おまかせください。

ローブニシジマ芦屋が、9/11(MON)オープンいたしました。

高級ファッション(ブランドもの、毛皮、シルク)専門のアフターファッションの店として、あなたの大切な衣装を、最高の技術でリフレッシュいたします。お気軽にお越しください。



ローブニシジマ芦屋

芦屋市大原町7-8 タウンクレスト大原1F ☎0797-38-3303



本社/神戸市灘区紀田町1丁目2-16

- 大阪支社/06-853-1332 ■ つかしん/06-420-3754 ■ ローブ・ニシジマ/078-332-2440
- 山手店/078-221-2440 ■ 宝塚/0797-72-0810 ■ リフォーム・フルフル/078-221-9110

レンタルブティック
フォーマル & ウエディング



結婚式・成人式・謝恩会・パーティーに
御利用下さいませ。

RENTAL BOUTIQUE
Elle エル

フォーマルウェア & ウエディング

三宮店/三宮神社北東

TEL 078-331-3258

岡本店/JR摂津本山北西すぐ、山手環線沿

TEL 078-413-0448



美容室 **エリザベス**

三宮神社北東 TEL 078-331-8894